

平成28年度 第1回 鳥取市総合企画委員会

- 1 日 時 平成28年5月31日（火）13：30～15：05
- 2 場 所 鳥取市役所 本庁舎6階 全員協議会室
- 3 出席委員 入江到委員、岡田一壽委員、岡本洋一委員、小谷文夫委員、下山裕子委員、白岡あゆみ委員、谷上雄亮委員、茶谷友士委員、塚田比佳里委員、西村賀代委員、橋本智洋委員、松本壽恵委員、松本弥生委員、森原昌人委員、森英俊委員、安田晴雄委員長、山根滋子委員
- 4 欠席委員 尾崎直美副委員長、上山弘子委員、谷口節次委員、富岡庄一委員、橋本勝信委員（荒木事務局次長がオブザーバー出席）
- 5 鳥取市 市長、副市長、関係部（局）長（監）、政策企画課創生戦略室（事務局）

○高橋政策企画課長

皆さん、こんにちは。時間になりましたので、ただいまから平成28年度第1回鳥取市総合企画委員会を開会したいと思います。

本日はお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。私は進行を務めさせていただきます政策企画課の高橋といたします。よろしくお願いいたします。

さて、本委員会は条例の規定によりまして委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないこととなっておりますけれども、本日は22名の委員様のうち17名の委員様の御出席をいただいております。会議が成立しているということを御報告させていただきます。

なお、尾崎副委員長、上山委員、谷口委員、富岡委員、橋本勝信委員については、所用により御欠席という連絡をいただいております。橋本委員の代理として荒木様に出席をいただいております。併せて御報告をさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして、深澤市長より御挨拶を申し上げます。

○深澤市長

皆さんこんにちは。市長の深澤でございます。今日は大変お忙しい中、本年度第1回となります鳥取市総合企画委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

御承知のように、昨年は地方創生元年というふうに言われておりまして、全国の自治体、

また、地域で将来を見据えたまちづくりのための取り組みがスタートしたところでありま
す。本市におきましても9月30日付で鳥取市版の人口ビジョンと鳥取市創生総合戦略、
この2つをつくり、また、併せまして今年度からスタートしております第10次の鳥取市
総合計画も策定をしたところでもあります。これらの戦略や計画の策定に当たりましては、
総合企画委員会の皆様に様々な御意見、御提言をいただいたところございまして、改め
まして心より感謝申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

いよいよ今年度からこれらの戦略や計画に位置づけております施策事業を展開していく
ということになったところでもあります。こういった戦略、計画はつくりっ放しというこ
とでなくて、これからも多くの皆様と連携をさせていただきながら、また、折々検証しなが
ら進めていくということになると考えております。私もできるだけ多くの皆さんから色
んな御意見をいただきたいということで、今年度からストリートミーティングということで、
比較的少人数の集まりの中で、色んな自由闊達な意見交換をさせていただきまして、それ
をこれからの取り組みや事業に反映させていただくということで、先般は子育て中のお母
さんと2回ほどざっくばらんな意見交換をさせていただきまして、色んな御意見をいた
だいたところでもありますし、私自身が普段ちょっと気づいていないようなことも気づかされ
たと、そういったことで、これからも様々な分野の方たちとこういった意見交換の場を持
たせていただければと、このように思っております。

本日は、この第10次総合計画の前期実施計画と鳥取市創生総合戦略の中に位置づけて
おります各施策の検証方法等について御審議を賜りたいと考えております。どうか忌憚の
ない御意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単でございますが、開会に当たりま
しての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○高橋政策企画課長

ありがとうございました。続きまして安田委員長より御挨拶を頂戴したいと思います。

○安田委員長

皆さん、お疲れ様でございます。26年の10月2日に諮問がございまして、延々足か
け2年でありまして、10回にわたりまして、答申まで10回の委員会をさせてい
ただきました。中にはこんなにもハードワークはないよねという意見が圧倒的でありまし
たけれども、委員長をつかさどる私自身もそこまでは考えておりませんでしたので、申し
訳なかったかなと思います。

本年度は大体3回程度で終わらせていただこうと思っておりますけれども、実は4月7

日に、話が変わるのですが、深澤鳥取市長、それから、鳥取県の東部の4町の町長様と、それから、商工会議所との関係で、実は会合をさせていただきました。鳥取市の話はもうこの総合企画委員会の中で皆さん十分御承知でございますので、4町の非常にユニークな町長方との話の中で、共通して悩みというのでしょうか、最重要課題はやっぱり移住定住、いわゆる少子高齢化に伴う人口減、もちろん転出もされるわけですがけれども、非常にお悩みでありました。4町の町長は本当にお困りになっておられるという実情を御説明いただきました。ただ、岩美町の榎本町長は大変強気でありまして、住みよいまち日本一という称号をいただきながら、現実問題として若い方々が12組でしたか、10組か12組かちょっと失念いたしましたが、その方々が今移住、定住をなさっているとおっしゃっておられました。智頭町の町長におかれましては、10年間以上住んでいただいたらその家を差し上げますよという話までしていただいて、若い方々の定住を促進されているということでもありますけれども、この問題については本当に私たちも第一義的に考える必要があるのかなと思いますし、それから2番目に、ちょっと話がそれるのですが、鳥取市さん、商工会議所さんで美術館の問題をやっておられますよねと。どうして我々に相談が無いのですかねという話までいただいて、何も美術館は鳥取市民のものではありませんよと。東部一円のものでありますよということで、幸いなることに4町の町長のいわゆる合意書みたいなものまでつくっていただけるということでありまして、大変これは力強いことだと思っております。

もう1点、5月22日に、実は僕は生まれて初めてというか、大変申し訳なかったのですが、若桜鉄道に乗せていただいて、鳥取から郡家、郡家から若桜まで、いわゆるローカル隼号に乗せていただいて、大変楽しい1日を過ごさせていただいたわけでもありますけれども、中で気づいたことが、まず、いわゆる列車の中で販売をなさるという大変懐かしい光景を見てまいりました。新幹線なり長距離の特急においてはそういう販売はあるのですが、わずか25分、30分の間で2人の職員の方々が販売をされると。それも試食まできっちり、まんじゅうを10個ぐらいに切られて、食べれば絶対買わなければいけませんよね。まんじゅうをいただきましたし、それから、おかきをいただいて若桜駅に着きました。若桜駅で実は山田社長が自ら電車のお迎えをされるという、珍しくその日は2列車というのでしょうか、大体単線で1列車なのですが、2つがほぼ満席でありまして、お迎えになられて、職員の方々は本当に懇切丁寧に接待をしていただいたわけでもあります。汽笛ももちろん鳴らしましたし、それから、機関車にも乗せていただいたわけでもありますけれど

ども、日曜日にもかかわらず、職員の方々があれほど熱心に取り組んでいただけて、やっぱりこの町にたくさんの方が来てほしいなという意気込みを感じられたわけであります。観光立県鳥取県、また、鳥取市でありますけれども、やっぱりやり過ぎということはないのかなと思いますので、この接遇なり観光の問題についても大きな問題を抱えているなど思っておるわけでございます。

今日は大変短い時間でございます。1時間30分、私が5分ほどしゃべりましたので、1時間25分にわたりまして協議をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○高橋政策企画課長

ありがとうございました。ここで、議事に入る前に、4月の異動に伴いましてお二人の委員の方が交代となっております。新たに委員として参画いただくお二方に自己紹介も兼ねまして一言ずつ御挨拶いただきたいと思います。

初めに、入江到委員、お願いいたします。

○入江委員

失礼します。鳥取銀行ふるさと振興部の入江と申します。前任の小野澤同様よろしくお願いいたします。先ほどからお話を聞いていますと、昨年度は大変苦勞されたということで、でき上がったところからの参加ということで非常に恐縮いたしておりますけれども、私、家は鳥取市の中山間地の用瀬でございますし、会社は中心市街地でございますし、私も銀行員の経歴としては、直近は大阪支店でしたし、あとは倉吉支店、郡家支店と色々な銀行の中でも人事にもおりましたし、色んな面でまた御意見等役立てることがあればと思っておりますので、ぜひどうぞよろしくお願いいたします。

○高橋政策企画課長

ありがとうございました。続きまして、橋本智洋委員です。

○橋本（智）委員

失礼いたします。連合鳥取東部地協の副議長をさせていただきます橋本智洋と申します。私は実は3月までは学校現場にありまして、ずっと小学校の教員として何年か携わってきておりました。目の前の子どもたちとか保護者の方とか同僚の方々とどんなふうにしていけばいいのかなということを日々悩みながら続けてきたのですが、この4月より労働組合というものに出させていただいて、それまでとは違うものを日々考えさせていただいております。目の前に起きていた出来事ということを日々悩みながら取り組んできていた

のですが、そういうことと実はこういうところで話し合われていることだったり、施策だったり法律だったりするものが関わりのあるものだなということを今この4月から、戸惑いながらですが、勉強させていただいておるところです。鳥取市のこういうところにも私も何か参加ができればなと思っております。よろしくお願いします。

○高橋政策企画課長

ありがとうございました。それでは、議事に入りたいと思います。委員会条例の規定によりまして、議長は委員長が務めるということになっておりますので、これ以降の進行は安田委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○安田委員長

ありがとうございました。今、お向かいにお座りの市長以下、市の職員の方々、上着を脱いでいただけませんか。非常に緊張してしまいますので、クールビズということにさせていただきますので、できましたらありがたいですけれども。

それでは、協議事項に入らせていただきます。第10次鳥取市総合計画、我々は10次総という言い方でいいかもわかりません。前期の実施計画についてということで、資料ナンバー1で説明をいただきます。この説明をいただいてから、今日は1度だけお一方に御意見をいただくように前もって御連絡いたしておきますので、その都合で覚悟してお聞きになっていただきたいと思っております。お一方、1問ないし2問という形で考えております。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

資料1・参考資料に基づき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございました。今、塩谷室長の方から説明がございました、大ざっぱな説明であります。といいますのは、これは皆さんがもうお勉強をなさっているという前提でございまして、1ページから30ページまでの項目について本日は御意見をお伺いしたいと思っております。ちょっとおさらいでありますけれども、以前、市民アンケート調査結果、10次総合計画の11ページをご覧になっていただいたらと思っておりますけれども、鳥取市のめざすべき将来の都市像ということで、生活基盤の整った定住促進、自然や環境に優しいやすらぎのある環境先進都市、それから、災害に強く安全、安心に暮らせる都市ということでございまして、それに基づいたアンケートが次の人に優しい都市、安全、安心に暮らせる都市、定住促進都市ということでのアンケートが3つ出てまいります。その次のペー

ジ、12ページ、これが喫緊の課題、優先すべき施策でございます、まず、雇用・勤労、高齢化、若者の定住対策と、この3つが重点テーマとなっております。これを念頭に頭の中に入れていただきながら御質問を受けさせていただきたいと思います。

前は茶谷さんの方から説明させていただきましたので、今回は勉強なさっている入江さんから御質問を承りたいと思います。それに基づいて一問一答の形で質問を回答していただくということにさせていただこうと思っております。時計回りと逆、茶谷さんが一番最後という形になりますので、後になればなるほど非常に難しいなということではないようにしっかりとお考えになっていただけたらなと思います。それでは、入江さんからお願いいたします。

○入江委員

しっかり勉強したつもりではあるのですが、的外れな話だったらすみません。たくさんの方の施策があって、これを実行していかれるというのは非常に大変なことだと思いつつながら事前にいただいた資料は見させていただいたのですが、冒頭、委員長からも1市4町の話があったりしたのですが、こうやって暮らしておたり銀行員の仕事をしていたりして、各市町ともそれぞれ素晴らしい施策をつくられるのですけれども、今回こういうふうにつくられた施策の中で、1市4町と連携したような取り組みみたいなものがどれぐらいあるのかなといいますか、そういった連携をしながらやっつけらっしゃるのかなというのが見ながら最初に疑問に思ったもので、ざっくりとした質問ではあるのですが、それをちょっと思ったので聞かせていただけたらと思います。

○安田委員長

具体的にはどうでしょう、市長でよろしいですか。

○深澤市長

まず、私の方からざっくり答えさせていただきたいと思います。また詳細は担当部長等がお答えさせていただく部分もあろうかと思いますが、まず、1市4町ですね、東部圏域だけではなくて、兵庫県北但馬の2町、香美町さん、新温泉町さんとも連携した取り組みを今進めていこうとしております。具体的に申し上げますと、例えば広域観光ネットワークの取り組み等々、それから、移住定住の促進につきましても、今年に入りまして東京、大阪でそれぞれ1回ずつであります、1市6町で連携をした移住定住相談の取り組み、相談会であります、こういったこともやらせていただいております。今、地方創生の国の交付金も活用できる、そういった仕組みになっておりますので、限りなくこういった有

利な財源も活用しながら広域観光、また、移住定住促進、色んな取り組みをこれからこの圏域で進めていきたいと思っております、この総合計画の中でも、あるいは総合戦略の中でも色んな事業を位置づけておりますが、まさにこの圏域での取り組み、単独の自治体、市町村での取り組み以上に、これからは非常に大切な、重要な取り組みになってくると思っておりますので、そういった考え方でこれからも連携をしながら、連携を図りながらやっていきたいと思っております。ちょっと部長の方から補足していただきます。

○田中企画推進部長

企画推進部長でございます。具体的には、今日の資料の29ページを開いていただければと思いますし、29ページの下の方針のところの自治体間の広域的な連携の推進ということで、311番にざっくりしたことが書いてありまして、計画書の方では、これは105ページ、106ページのあたり、ここに1市4町だけではなくて、色んな隣接する自治体や広域圏、こういったものと連携して行政を進めているということで、市長の話がありましたけれども、昭和40年代から1市4町、以前は15市町村でしたけれども、ごみ処理とか消防、こういった共同処理事務を重ねてきていまして、現在は、先ほどありましたような観光とか移住定住、こういったものに、考え方としまして当然鳥取市だけではなくて、やはり4町、こういった広域的なところの底上げを連携して図っていくという考え方のもとに進めておるところでございます、この実施計画もそういった内容で盛り込んでおるところであります。以上です。

○安田委員長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。次、岡田委員、お願いします。

○岡田委員

では、失礼します。この間からこの会に出させていただいて、私一番色々お願いなり意見を言わせていただいた中で、特に地域のまちづくり協議会の会長をしておったり、自治会長をしたりしておりますと、まず、何といたっても地域の団体、また、そういった諸団体の教育力を高めるための地域力の向上ということになりますと、公民館の方の活動なり公民館が中心的な役割をしていただくものですから、我々としては公民館におんぶに抱っこの状況があって、申し訳ないと思っておるのですが、私としては現在、鳥取市の場合、公民館の館長さんの手当といえますか、こういうものが他の郡市、松江あたりは21万とか、下関が23万であることと比べてみますと、確かに年金を持っておられて、プラスの面で、それでいいではないかという御意見もありますけれども、非常に有能な若い人をお

願いするためには6万何ぼということだけでは非常に困るわけで、何とかそういうことで考えていただくとありがたいと思っております。公民館はまちづくりの拠点であり、事務局、24時間の仕事をされる館長とか主任もあるわけですし、そういう点で期待度も高いものですから、御配慮いただけたらありがたいと思います。以上です。

○安田委員長

いかがでしょうか。どなたか。市長。

○深澤市長

先ほど岡田委員さんからいただいた意見、以前から同様の御意見もいただいております。鳥取市も従来からずっと公民館長報酬の見直しも行ってきておりまして、なかなかまだ十分ではないのかもわかりませんが、引き続きまして全体の特別職の報酬等も含めた検討の中で考えていく課題であるかなと思っております。若い方が公民館長に就任をしていただく、そういうことも将来出てくる可能性もありますので、総合的にこれからまたそのあり方といいますか、額について研究させていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○安田委員長

ありがとうございました。それでは、岡本委員、お願いします。

○岡本委員

私の方からは、委員としてこの計画策定に参画させていただいて、その時に申し上げればよかったのですが、後からちょこちょこ気がつくことがございます。具体的には9ページの障がいのある人の自立支援等では、県の言語条例等を踏まえた中でのコミュニケーションの支援事業があったり、大きな施策であるかなと思ったりしておりますし、人権擁護の推進等につきましては、成年後見事業、これは市の事業としてやっておられますし、こういったのも入れておいた方が、よりわかりやすいのかなと感じたところがございます。委員として発言しなかったことに対してお詫びをするとともに、改正の時にそういった点も見直していただけたらありがたいかなと。

一つだけ私の方からお願いしたいことは、31ページにあります病児・病後保育等につきまして、私も孫がおりますので、孫が保育園に行っておると、途中で熱を出したから迎えに来てくださいというケースが非常にあって、うちの職員もちょこちょこ熱を出したので迎えに行くので昼から休ませて下さいといったケースがございます。単独施策というのではなくて、連携したような形で、保育所に行きました、その中で何らかの症状が出て、

保護者の迎えが必要になったといった場合に、医療機関等との連携を図りながら、何とか育児をする方が緊急な対応ができる場合は結構だろうと思いますが、できない場合の対応という方策も御検討いただけたらなど。要するに、色んな事業の組み合わせという形で、そういった視点から考えていただけたらありがたいと思います。以上です。

○安田委員長

ありがとうございました。健康・子育てになるのかな。いかがでしょうか。

○岩井健康・子育て推進局長

健康・子育て推進局の岩井と申します。よろしく申し上げます。今の病児・病後児保育等ということで、計画の中では6ページの45ということで、重点事項ということで上げさせていただいておるところでございます。こちらの方につきましては、去年から生協病院を定員が4人から7人、徳吉薬局さんの方で6人ということで去年新設をさせていただいてやっておるという状況でございます。そのほか、病後児保育の関係ですが、市立保育園とかITサポート研究所、訪問の関係ですが、そちらの方でやっているというところがございます。こちらの方は今増加傾向にあるということがありまして、なるべく受け入れ体制をとということでやっていかなければならないなと思っておるところでございますが、今言われました病気になった時の対応ということでは、なかなか対応できていないという、病院の方に連れていったりとか、保護者の方が園に来ていただいてという格好をしないような形で何かできればという格好になるかと思えます。そういうような格好、何かいい方法がないかなということにつきましては、検討させていただけたらと思っております。

○安田委員長

ありがとうございます。岡本委員、よろしいですか。それでは次、小谷委員、お願いします。

○小谷委員

同じく8ページ、9ページかな、高齢者の交通事故が非常に増えていて、加害事故、あるいは被害事故、両方とも増えているわけです。それで運転免許の返納制度というのを設けて、返納したらこんないいことがありますよとか、色んな支援制度があったり、それから、運転免許センターに相談員を配置して事前にキャッチしたりするわけですがけれども、やはり返納に応じていただこうとしたら、特に中山間地域での足を確保しておかないとなかなか難しいと。ここで認知症とか在宅医療とか色々ありますけれども、それに限らず、やはり返納を促進しようと思ったら、そういうことをしていただかないといけないし、計

画内容のところ、そういう運転免許証は警察の仕事だというわけではなくて、やはり行政、地域行政がそこに1歩も2歩も関わっていかないとちゃんとした何というのでしょうか、ライフオリティーといいますか、そういうクオリティーが確保できないと思うので、その辺のまた御検討をお願いしたいと思います。

鳥取市はバスなんかに対して非常に高い補助といいますか、返納者に対してされているのですが、もう一步地域に踏み込んでいかないと、バスだったら例えば1日に3便ぐらいしかなかったりするんで、もう少し何とかできないかなという気持ちを持っております。

それから、滞在観光のところですけども、ここに限らないのですが、186番なんかで、ちょっと変な言い方なのですが、色々新聞を賑わせたようなことに対して、まだやはりちょっと予算的なペナルティーみたいなものがあるのかなということをおもいます。ここに力を入れていかなければいけないということで、項目に上げていただくのはいいのですが、その辺のめり張りといいますか、そういったものが実施の段階の時につけていただければ、やはり支援を受ける側もピリッとするのはないかなということをおもいます。以上です。

○安田委員長

ありがとうございました。ちょっと2つに分かれていますね。高齢者の交通の関係、返納も含めてです。これは福祉保健部でいいのでしょうかね、いかがですか。

○中島福祉保健部次長

色んな分野に関わるとおもいますが、福祉保健部で関係しますのは、先ほどおっしゃられたのですが、返納者に限りませんが、高齢者の皆さんの交通手段の確保、あるいはバスの利用促進、中山間地の振興のこともありまして、バスのフリーパスの運賃優待制度ということで3割引きという高齢者のフリーパスの優待制度を以前から設けておりまして、そういったことを進めておるといことがございます。

それから、認知症の話も出ておりましたが、認知症がとみに最近色々クローズアップされて、今色んなところで問題が生じるということがあります。そういった認知症に対します対応ということで、地域での早期の発見、早期対応ということが一番肝要だろうということで、地域支援推進員というものを前年度から設けておりますし、また、今年度には初期の対応ということで、認知症の初期集中支援チームと、そういったものを専門医の皆さんを中心とした関係者による集中的な支援をやっていくと、そういったことを今年度実施の予定ということで行っておるところでございます。福祉保健部として中心的に話せるこ

とはそういったことがありますし、また、ほかのところであればお願いします。

○網田都市整備部長

続きまして、都市整備部でございます。まず、免許の返納の関係でございますけれども、今年度より、従来から高齢者の方のバスの定期については低減させていただいておる制度がございますけれども、これに加えまして、免許の返納後、一定期間につきまして、定期を2,000円という形で大幅に低価格で御利用いただくという制度もスタートさせていただいております、高齢者の方の免許返納に伴う積極的なバス利用というものを進めてまいっておるところでございます。

それと、例えば中山間地等のバス路線の利便性というお話もございましたけれども、鳥取市といたしましては、公共交通路線の維持というところに向かって、様々な路線について、一つの例としては南の用瀬でありますとか、佐治というところで、バスを幹線と支線に分けて、そのことによって幹線路線の本数やなんかを確保したり、末端の路線の維持ということを取り組んでおるところでございます。そういった中で、利便性ということで、1時間に何本もというところはなかなかかゆいところに手が届くというところまではいっておりませんが、やはり最低限バスで生活が一定程度できるというところに向けて今後も取り組んでまいりたいと思います。以上でございます。

○安田委員長

ありがとうございました。広域観光は、大田経済観光部長。

○大田経済観光部長

経済観光部長の大田です。小谷委員さん、先ほどの広域観光の御質問を受けたのですが、具体的には少し内容がわかりにくかったものですので、再度お願いできますかね。

○小谷委員

私もはっきりあれなのですが、吉岡温泉町の自治会の会長さんが何か着服だかなんだかそんなのが新聞記事に出ていてということがあったので、その件です。

○大田経済観光部長

では、それは個別で後から、ちょっと私もよくわかりませんので。

○安田委員長

そうしてください。よろしいでしょうか。それでは、下山委員、お願いします。

○下山委員

失礼します。12ページの114番ですが、事業の概要のところ、ワーク・ライ

フ・バランス、女性の」と書いてあるのですが、これをつくる時に気づけば良かったのですが、別に女性でなくても男性もワーク・ライフ・バランスがちゃんとしておかないと働きづらいのではないかなと、これを読みながら思ったので、今後こういうのがあれば、女性に特化した施策とか政策をするのもいいと思いますが、男女問わず働きやすい環境をみたいなのも大切になってくるのではないかと思うので、今後はそこもお願いします。

○安田委員長

女性に限らず男性もということですね。いかがですか、市長。

○深澤市長

これはワーク・ライフ・バランス、先ほどお話のとおりでございまして、男女問わずということで、もちろん男性、女性共通の取り組みとしてこれを進めていきたいと思いますし、ワーク・ライフ・バランス、次の女性の活躍を推進する企業の支援による何々ということで、いわゆる女性活躍推進法が施行されておりますので、これは今まで以上に女性の皆さんに様々な場面で御活躍をいただきたいということでもあります。ワーク・ライフ・バランス、これはもう男性ももちろんであります。以上でございます。

○安田委員長

よろしいですか。それでは、白岡委員、お願いします。

○白岡委員

失礼します。19ページの199の鳥取市知名度アップ大作戦の事業のことで、先般、フェイスブックの鳥取いいねというページを見せていただいて、すごく親しみの持てる投稿が並んでいて、やっぱり同じインターネットという中でもSNSを通じた情報の受け取りというのは、より親しみを感じるものだなというふうに感じました。こちらの発信はぜひどんどんしていただけたらなと思うのですが、一つだけ確認なのですが、これはターゲットの年齢層は限られているのでしょうか。というのは、私なんかはすごくどの投稿も親しみを持って見れたのですが、物すごい年配の方とかも最近SNSを使っておられる方が多いので、男性、女性、老若男女問わず、ひっきりのあるような幅広い視点の投稿があった方が、よりシェアをしてもらったりとか、届く範囲が広がるのかなと思ったのですが、どうなのでしょう。

○安田委員長

これ、総務部長でよろしいですか。

○田中企画推進部長

企画推進部長でございます。今、白岡委員のおっしゃったSNSですけれども、特に、ターゲットがどの年齢層というわけではなくて、押しなべてSNSを使われる、裏を返したら若干今はまだやはり若い層がメインになってくると思いますが、ただ、だんだんこういったデジタルメディアも年配の方も時代が流れていくにつれて、多分層が広がってくるのかなと思っております、今おっしゃられたような考え方は十分この中でも今後施策では生かしていきたいと思っておりますので、ありがとうございます。

○安田委員長

白岡委員、よろしいですか。谷上委員、お願いします。

○谷上委員

失礼します。私の方からは、色々あったのですが、1件ということで、先ほどありました広報とかそういったのと他の施策の方の連携をお願いしたいというふうに言おうかなと思っていたのですが、私の方は、施策の21ページの220、地域おこし協力隊事業ということで、佐治町の方に今4名、鳥取市で初めてということでおまして、今年度で3年の任期が終わります。近場におるもので色々話をさせてもらって、今年度終わったら定住しますという意向をされているのですが、地域おこし協力隊を卒業していかれるのですけれども、そういったのを先進といいますか、若い人たちが卒業してまた鳥取市に定住していくのですが、そういったことに対しての意気込みといいますか、そういったのを私は聞けたらいいかなと思っております。卒業してどういうふうに担ってってもらいたいとか、色々な問題がありまして、鳥取さんとなかなかうまくいったところがあったり、うまくいかないところがあったり色々するのですが、そういった問題は今後どんどん増えてくると思いますので、意気込みを聞けたらなと思っております。はい、以上です。

○安田委員長

今の谷上委員の件ですけれども、いかがでしょうか。市長、お願いします。

○深澤市長

今、御意見をいただきましたことは、私も大変大切なことだと思います。まず、3年間の任期、地域に溶け込んでいただいて、力を発揮していただくということの後に、ぜひともこの鳥取市へ住み続けていただきたい、定住をしていただきたいという我々思いでありますので、あとは担当の安本さんから。

○安本地域振興課参事

失礼します。移住定住の担当係長の安本でございます。どうぞよろしく申し上げます。

佐治の谷上委員さんから御質問をいただきました地域おこし協力隊員、この制度を鳥取市も導入しまして、これまでに11名の方に移住ということで住んでいただいています。卒業は3年を目途にという中で、来年の春には佐治の4名の方が御卒業。その中で、本当に佐治で暮らしていきたいというお気持ちを受けているところでございます。住まれる、これから定住するということには色々これまで3年間の鳥取市の施策と足並みを揃えて事業を実施していただいたという部分がございますが、それぞれ皆さんが今後住んで仕事という部分をこの3年間で養われて生かしていくということも大切ではありますので、少しでございますが、今年度は生活に関わる家賃補助とかそういうのも設けたりしておりますし、個別にそれぞれが仕事と住まいという部分が大切になりますので、お話をお聞きしながら支援をしております。

現在、9名の方が隊員としておられます。1名の方は早くに鳥取市の方に定住で流れとしては同じような御職業についておられるということもありますので、それぞれの分野で頑張ってくださいですので、一生懸命支援するように意気込んでおりますので、どうぞ、佐治地域の皆さんにも同様の考えでやっていきたいなと思っております。ありがとうございます。

○安田委員長

ちなみに智頭町長は15年住んだら家をあげると言っておられましたが、鳥取市としてはいかがでしょうか。もう建てた家まであげるとか。

○深澤市長

ちょっと家をあげるというところまで鳥取市は難しいと思いますが、できる限り引き続いてお住まいになっていただくように我々もしっかりと頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○安田委員長

ありがとうございます。それでは、山根委員の方に移りましょうか。

○山根委員

お邪魔します。私は、28ページの循環型社会の形成というところで、鳥取市連合婦人会では、40数年にわたって古紙回収ということをやっと続けておりまして、燃やしてしまえばただのごみ、再利用すれば再資源というのをモットーに一生懸命頑張っているところです。それで、古紙回収すれば鳥取市さんからも幾らかの還元金がありまして、随分とみんなが励んでいるところですが、昨今、道路沿いに回収ボックスというのがたくさん

置かれていまして、何か美化、美しくないですよ。ごみがいっぱい、古紙が入っているのです。また、ある日は小・中学生だと思っておりますが、その中に入って、色んな雑誌が入っているので、それを読んでいる場面を何回か見受けたことがあるのです。あれをなかなか撤去してくれとは言えないと、一度交渉に行った時に言われたことがあるのですが、青少年のためにも環境美化のためにも何とかならないものかなと常日ごろ思っているところなんです。この点につきまして。

○安田委員長

あっ、そうですか、そんなことがあるのですか。新聞紙、段ボール、その程度であれば何ら差し障りないのでしょうかけれども。雑誌となると色々問題があるやもしれませんね。これはどこですか、環境になるのかな。

○澤田環境下水道部長

環境下水道部長の澤田ですけれども、先ほど言われたように、市内にトレイというか、コンテナで無料の古紙回収ということで、大変今たくさん地区に出しておりますけれども、その方がかえって市としても定期的に古紙の回収等でやっているのですけれども、それは常時置いてあるということで、なかなか色々トラブルも、その後、売れる有価物だけは持って逃げられるのですが、それ以外のものはそのままになっているということで、環境的に余り良くないということで、それについて色々対策等でやっているところですが、業者さんがおられますので、なかなかそこら辺はちょっと難しいところです。ただ、一応市としてもそういう古紙回収なり各子ども会とかPTAとか、そういう古紙回収の斡旋をしていただいて、その助成ということで色々そういう古紙回収の関係の助成を進んでいきたいと考えております。今のコンテナの関係はちょっと今後検討していきたいと思っております。以上でよろしいでしょうか。

○安田委員長

はい、ありがとうございました。でも、全然気がつかなかったのですが、そういう書籍があるということ自体がやっぱり問題ですよ。何とか早急に検討する必要あると思いますね。社会通念上、教育上よろしくないと思います。よろしくお願いします。森原委員、お願いします。

○森原委員

私は24ページの地域防災力の向上の件で、質問と意見をしたいと思います。この前の熊本地震、震度7の地震が2回起きるといった過去例のない大地震となったのですが、特

に建物の耐震化の問題、役場とか病院が使いなくなるという町もあるのですが、お金のかかることですけれども、やはり公共施設の耐震化のスピードアップが今やっぱり求められているなという感じがしています。特に西日本ではいつどこで直下型地震が起きるかわからないと言われていまして、鳥取でも72年前に鳥取大震災があったのですが、本当に心配な声がよく聞かれます。その公共施設の耐震化とともに、一般家屋の耐震化、耐震基準が強化される前の古い建物の家をどうするのか。ここに無料耐震診断とか耐震改修に対する助成とかあるのですが、これは余り市民には知られていないと思いますので、そのあたりの周知に力を入れていただきたいと思います。

もう1点、地震関連で、地震発生時の対応は市の防災計画等できちっと多分されておると思うのですが、今回の熊本地震を見ますと、発生後の対応、特に避難所での対応、それから仮設住宅の整備、高齢者、特に要援護者の生活支援と色んな問題が浮き彫りになっていますので、そのあたり今一度再検討といえますか、これまでの市の防災計画等の見直しも含めて早急にそのあたりの対応をしていただきたいと思っています。以上です。

○安田委員長

防災地震の関係です。どちらになるでしょうか。よろしいでしょうか。防災の関係、調整監いらっしゃいますか。

○秋山総務調整局長

総務調整局長、秋山でございます。鳥取市の公共施設の耐震化につきましては、鳥取市も大分以前からずっと計画を独自立てまして、計画的にやってきているということがございます。それで、ちょっと数が今手元にありませんけれども、計画を予定しております耐震化につきましては、ほぼ今年度でほとんど終了すると。来年度4施設ほど若干残っているということがございます。

それから、防災拠点になります、特に庁舎につきましては、いわゆる総合支所等につきましても、これについては耐震化計画の中から除外されていた部分がありまして、その部分につきましても、今計画を策定中でございます。今後、年次的にそれぞれの総合支所の庁舎の方も耐震化を図っていきたいと考えておるところでございます。以上です。

○安田委員長

ありがとうございます。よろしいですか、森原さん。

○森原委員

地震発生後の被災者への生活支援、そのあたりがちょっと曖昧模糊として、今回色々

課題が出ていますので、今回の熊本地震を通じて何か見直しをされるのかどうか、支障ない範囲でお伺いしたいと思います。

○安田委員長

いかがでしょうか、森原委員からの質問。

○高橋防災調整監

その部分につきましては、防災調整監の方からお答えいたします。

御指摘のように、鳥取市も地域防災計画をつくって色んなことに備えているわけですが、おっしゃいますように、熊本地震を踏まえまして、避難所の運営とか仮設住宅、これはあらかじめどこにどういう用地をとっているのかということもありますし、それから、避難行動要支援者の問題、それから、支援物資が行き届かなかったといった様々な問題が指摘されていますので、そういったものを検証の上、必要な見直しを鳥取市の防災会議の方に諮って見直していくように考えております。以上です。

○安田委員長

ありがとうございました。市長、よろしくお願いします。

○深澤市長

私からちょっと補足させていただきたいと思います。この度の熊本地震を我々も教訓とすべきだと思ひまして、実は今日も朝、緊急の参集をやるという訓練をやりました。6時30分に震度6弱の地震が発生したという想定のもとに連絡をとりまして、職員が本庁舎に参集するという事の中で、新たに色んなポイントでやったのですが、その中の一つに、この度の熊本地震で人命救助とあわせて生活支援が同時に発生したと。まさに避難所での対応等々がすぐ発生する、必要になるという認識を改めてみんなが持とうということをして今日朝やりまして、情報収集、災害を受けた市民の皆さんがどういった状況にあるのかと。まさにそれを即座に情報収集する、状況を把握する、それをみんなで共通認識をして迅速に動いていこうと、そういったことを改めて今日の朝やったところであります。防災計画等に位置づける前に、まさにそういったことを迅速に対応できるようにやることも必要だなと思っておるところでありまして、非常に重要なポイントであると考えておるところであります。

○安田委員長

ありがとうございました。森原委員、よろしいですか。

○安田委員長

そうしたら、気高の松本委員、よろしくお願いします。

○松本（弥）委員

私はまちづくり協議会の方の代表として出てきているのですけれども、私、実は20年近く前に公民館の主事をしておりまして、その頃から余り状況が変わっていないと。うちの地区だけかもしれませんが、教育委員会の関係の施設が入っていたもので、事務局がたらい回し。20ページなんか書いてある地区の拠点となる公民館とか、まちづくりで言えば事務局が公民館ということになっていますが、施設のたらい回しですね、あっちの方に事務局があるのであっちに移れ、今回は図書館をつくるのであっちに移動しろということで、私、半年しか主事をしていなかったのですが、半年の間に2回ほど引っ越しをさせられまして、引っ越しした思い出しかないのです。なかなか地域に根づいた活動をしろと言われても、そういう拠点自体がはっきりしていないですし、あと、中央公民館という言い方ですので、施設が、浜村地区公民館の事業といっても、中央公民館が会場ということで、地域の方からは浜村地区公民館はどういう活動をしているのかと、何もしていないではないかと常日ごろから言われて、なかなかつらい思いをしてここ何十年やってきておる状況です。

ましてや今、20ページの205に書いてありますが、老朽化した地区公民館の新築と書いてありますが、20年頃からずっと戸が斜めになって閉まりにくいとか、そのような状況は未だ全然関係なく、去年に至っては体育館が使えない状態で、危険ですので入らないでくださいということで、体育館は使用禁止。地区の子どもたちも遊ぶ場もなく、そして、部活をやっていた中学生たちもやることもできず、また、町のスポーツ大会をするにも、隣接してわかとり国体の時に農業者トレーニングセンターというのができましたので、そちらの方ではしていますが、会場の名前が農業者トレーニングセンターなので、結局は地域の方は、同じ名前でやっているところの施設だと、あっ、あそこが事業をしているなとわかってくださるのですが、名前が違くとやっぱりなかなか受け入れてもらえないというのが実情で、色々な会合におかげさまで出させていただいているので、何かしら言われるのは、ハード面では直す予定が今のところはありませんと。できたら今ある現在の建物を使って何とかしてくださいというのがここずっとの意見ですので、その辺は拠点にして何かを活動しろと言われて割にはどうなのかなというのがちょっと疑問です。ここにきて自分の地域のことだけ言うのも何かなと思ってずっと黙っておとなしくしていましたが、その辺が教えていただけたらと思います。

○安田委員長

堰を切ったみたいですね。でも、本当に大事な話が委員から出ているのです。地域振興みたいなことでよろしいですか。どなたか代弁していただけますか。何とかしましょう。

○田中企画推進部長

企画推進部でございます。浜村の地区公民館ということで、実は建設年次はかなり古くて、おっしゃったように、中央公民館と体育館ですか、非常に複合的になっていまして、実は鳥取市の公民館を、これは年次的に耐震改修ですね、先ほどありましたけれども、耐震NGの部分については耐震改修、また、非常に老朽化している部分については新築をしているという計画をもって進めているところで、なかなかそれが浜村の順番がきていないというのが実情でありまして、大変恐縮しているところでございます。おっしゃったような話で、確か体育館も使えない状況だったのですかね。ということがありまして、当然これは地域づくりの拠点ということで、公民館はまちづくり協議会の当然その一番の拠点になるべきところということであります。今日いただいた意見をもう一回きちんと市の中で、精査しまして、また今後に向かうと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○安田委員長

よろしいですか。それでは、教育の松本委員、お願いします。

○松本（壽）委員

失礼します。私の方は4ページに書いてあります16番の「未来のとりどり教育創造事業」ですけれども、鳥取市版コミュニティースクールの実施ということで、コミュニティースクールは全国色んなところにあって、やはり学校問題を地域で解決していくし、学校運営も学校だけではなくて、地域の地域力も入ってという形で考えられているということですが、鳥取版というものの具体的なことを一つお話ししていただきたいのと、もう一つは、19番の「鳥取市グローバル人材育成事業」というので、実際には英語が始まるということ、それから、やはり世界に羽ばたくといえますか、世界で活躍できる人材づくりというものの一つに、英語圏への短期研修というのが書いてあるのですが、実際、今年中学校2年生の方は募集が入っていると思うのですが、具体的なお話をちょっといただけたらありがたいと思います。以上です。

○安田委員長

2つとも教育委員会ではよろしいでしょうか。

○木下教育長

まず、鳥取市版という意味ですね、鳥取市版のコミュニティースクールですね。この鳥取市版とあえて言っているのは、国が示しておるのが、その要件の一つに教職員の人事に関わる部分に、いわゆる参画をしていくというのがあるのですが、鳥取市はその人事のところについてはタッチしませんということなのです。国の文部科学省の方も実はそのことは当然考えておる話でありまして、今さらに全国のたくさんの学校に、このコミュニティースクールというものを広げていこうということで、地域の皆さん方の参画を得た学校運営を進めていくという中で、そういう新たな形を今推奨しておるところですので、今、鳥取市版というふうに使っておりますが、これは将来的には必ずしも鳥取市版にはならないのかもわかりませんが、そういうことであります。

○安田委員長

グローバルの方はいかがですか。

○木下教育長

これは決して2年生に限ったことではありません。希望する子どもたちには鳥取市を代表してしっかりと海外で学習をしてくれる子どもたちには、英語圏の国で、今現在考えておりますのはシンガポールです。シンガポールに10名派遣しまして、夏休みになりますが、この8月に向こうの方の学校も授業して交流できる学校がありますので、そこと交流をしてこようと今考えておるところであります。今、各学校に案内を出しておるところであります。なお、希望する子どもたちが経費の面で困ることのないようにしっかり色々配慮をしながら募集をかけておるところであります。以上です。

○安田委員長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

○安田委員長

それでは、連合の橋本委員、お願いします。

○橋本（智）委員

7ページの66番に子どもの貧困対策推進事業というのがありますが、これは具体的にどういう事業なのかというのを教えていただきたいです。鳥取市の雇用状況というのは喫緊の課題の1番に上がっていると思いますが、そういうところとの密接な関係もあると思うのですが、とても大切なことだと思いますので、できるだけ実際に大変な子どもたちに手が届くようなとか、そういう事業になっていくことを期待したいと思うのが一つと、あと、これは先ほど私が言いましたが、学校現場にいたもので、組合ですと現場を回っ

ておりますと、どうですかという話を聞かせていただくと、とにかく忙しいということはずっと言われるのです。何とか人を増やせないのかということが言われます。規定の人数はもちろん法律に則ったものはあるとは思いますが、代替教員がいないのですというところが結構おられて、色んなところを探して、校長先生も探されたり教育委員会の方も探されたりするのですが、なかなか見つからなくて、結局空き時間を削って中にいる者でふうふうやっているところがあって、いつどうなるかわかりませんという話も聞かせていただいて、どうやったら人を増やしていけるのかなという、財政的なものもあるかと思うのですが、やはりそのあたりは要望として言わせていただきたいと思います。

○安田委員長

今、要望が出ておりますけれども、どうでしょうか。2点ですね。

○岩井健康・子育て推進局長

健康・子育て推進局の岩井です。こちらの方からは、まず、貧困対策の推進事業ということで66番に関してちょっとお話をさせていただきたいと思います。こちらの方は、今盛んに言われております貧困の連鎖ということで、学力と貧困家庭、あるいは生活状況と貧困家庭、これがなかなか負の連鎖から抜け出せないという格好がございます。一番何が原因かということをもまず押さえた上で、具体的な施策を検討しようかという段階で、今、そういう段階でございまして、今年度の予算につきましては、調査経費というのを計上しておるという状況でございます。その調査を行いましてから、その調査結果に基づきまして、一番有効な具体策はどうかというのを検討していけたらなということで、今作業を進めておるという状況でございます。具体的などいうところにはちょっとなりません、今、状況的にはそういう状況だということでお伝えさせていただきたいと思います。

○安田委員長

はい、わかりました。2番目、教育長、よろしくをお願いします。

○木下教育長

私は、この問題については、私もかつては学校に勤務をしておったものですから、非常によくわかるし、実は何とかしたいといつも思ってきたことであります。ストレートに行政の方から多忙化について直接的に何とかしようという部分では、この中にも関わっておりますが、例えば校務支援ソフトですね、いわゆる今コンピューターの時代ですから、こういうものを取り入れながら、少しでもそのあたりの業務の量を減らしていきたいということを実は今進めております。

それから、もう一つ、教員のという話がありました。これもおっしゃったように、法で教員の数というのは決まっておりますので、ですからどんどん教員をつけるわけにはならないのですが、ただ、休まれた時に、あるいは加配をつけるという時に、なかなか教員が見つからないというのがあるのも事実です。実際問題、全体の数として教員の数が求める数に合致していないという部分もあるのです。鳥取県を希望した人が全て最後まで鳥取にいるかという、そうではないわけで、よその県にもやはり出ていくわけですので、そんな中で、新学期が始まって、この先生が欲しいなと思った時に、やはりどうしてもなかなか思うようにいかない現状があるのも事実です。ですから、実は一生懸命になって探しておるところです。それはしっかり御承知をいただいております。教員についてはそういうことです。

最後には、この多忙化という問題は単に量的に何が多から忙しいというだけの話ではなくて、こうやって時代がどんどんどんどん変わっていけば、やはり新たな課題ですね、量的な課題、あるいは精神的なストレスといいますかね、色々な問題がやはりある職場にやはり学校というところも変わってきております。多分これは学校だけに限った話ではないとは思っておりますが、そんな中で一致団結、協力しながら今一生懸命頑張っておるところでありますので、よろしく申し上げます。

○安田委員長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは、西村委員、お願いします。

○西村委員

こんにちは。すみません。22ページの世界に開かれたまちづくりというのが大体私の担当する部分だと思うのですが、4項目、229から232までございますが、前も申し上げたのですが、やはり余り変化がなかったところにおいてちょっとおこがましいですが、私も新しい御提案ができなかったということで反省をしております。

それで私、つい最近、ドイツとスイスに行ってまいりました。スイスに行きますと、すごく若い方が農業をしているのがとても目立ったのです。それで、地元の方にちょっと聞いてもらったのですが、どうしてかと聞きましたら、食べ物をつくったりすることが一番崇高な仕事だと。その崇高な仕事に若者がつきたがるのは普通ではないかと言われて、ちょっとショックを受けまして、ええ、そうですか、では、御老人は何をしているのですかと言うと、老人もそこにももちろん住んでいますよ。スイスは日本と同じようにすごく山間部が多くて、山の上にたくさん住んでおられるのです。生活はどうしているのですかと言

うと、もうほとんどおりにてこられませんと。では、どうしているのですかと聞きましたら、中高生がボランティアで月1回とか2回、食物を届けに行ったり、何か用事はありませんかということで訪ねるそうです。学校全体でそういう活動をしていて、若者にとっては、そういう人たちに触れることによって自分が役に立っているということがものすごく国に住んでいることの誇りにつながると。そして、将来的に自分もこんな仕事、こんな生活を老後もしてみたいと思うようになるというのを聞いたのがものすごく印象的で、ちょっとそのお話をしたいなと思いました。以上でございます。

○安田委員長

ありがとうございました。いかがでしょうか、これは国際交流の問題も含めてでありますけれども。

○田中企画推進部長

企画推進部でございます。22ページに世界に開かれたまちづくりということで、引き続きの施策という状況になっておりますけれども、これに加えて、ここだけのページではなく、例えば13ページであります、工業の振興の中で、124番、しっかり星がついていますけれども、環日本海経済交流ということで、以前は文化的な交流というのが主体でありましたが、近年、やはりこういった環日本海とか韓国、中国、ロシア、また台湾やタイとか観光で来ていらっしゃるんですが、こういった経済交流的なものを逆にこっちの方に重点、軸足を置いてきているような交流になっているのかなと思ひまして、一応鳥取市の方もこういったことで力を入れたいなと。先ほど教育委員会の方でありましたが、グローバルな人材ということで、派手な施策みたいなものはないのですが、やはりこの辺も着実に進めていくのかなという認識を持っておるところでございます。

○西村委員

すみません。言い忘れましたが、私も海外に行きますとスマートフォンで引きますとパッと何でも一気にヒットするのです。そういったWi-Fiの施設とか、これからオリンピックをめざして、ぜひそのついでに鳥取に寄っていただけるように、英語、中国語、韓国語等で何か引くと、「鳥取のこんなのがありますよ」みたいな、ヒットできるようなことをなさったらいいのではないかなと思ひました。外国人は皆さん持って、誰にも聞かずに勝手に動いているというのが素晴らしいなと思ひました。

○安田委員長

このネットワークの問題も含めてでありますけれども、いかがでしょうか。

○大田経済観光部長

経済観光部でございます。今でも色々Wi-Fiの整備とか観光地、市内は整備を順次行っております。最近では砂の美術館でも韓国や英語でも使えるような整備をしておりますし、100円バスとかにも昨年入れたところですが、また、これからも今年度もですが、東部1市6町でまたそういう外国人のインバウンド対策、そういうものをスマホとSNSとか、そういう対策をしていこうとしております。やはりこれからインバウンド増えていきますので、充実していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○安田委員長

よろしいでしょうか。それでは、塚田委員、申し上げます。

○塚田委員

失礼します。ページとしては7ページの65ぐらいになるのでしょうか、発達障害の子どもに対する対応ですが、八頭町とか若桜町におきましては、5歳児で全ての子どもに、社会性がちょうど育まれる時ですので、5歳児健診をされているのですが、鳥取市ではなかなかそれは保護者の方からとか保育園の方から余程のことがないと5歳児に対する、この子はちょっとということが上がってこない。そして、就学時健診で何とか見つかるか、それともそれで小学校に入って加配になるかというふうになっているのですが、やはり早く手を打つということで、5歳児健診をぜひしていただきたいなと思います。やはりほかの子どもたちに対する影響もありますし、先生の忙しさにも多分輪をかけていると思えますし、そういうことが少しお願いできたらなと思って発言しました。

○安田委員長

ありがとうございます。福祉保健でいいのかな、これは。どうでしょうか。

○岩井健康・子育て推進局長

健康・子育て推進局、岩井でございます。今の5歳児の健診ということで、鳥取市の方では5歳児健診ということはやっていないというところですが、6ページの41番、重点事項というところがございます。こちらの方、妊婦・出産包括支援事業ということでやっておることがございまして、こちらの方、まずはじめに少子化ということで、妊娠で子育てをすると、子どもを出産するというところから始まりまして、その後で妊娠期、出産期と、産後、子育て期ということがございます。このあたりで母子手帳を渡す時にお母さん、妊婦さんにアンケートをとったりということで、継続してサポートをしていくと。そのところで子どもが生まれたあたりでどういう状況かというのを確認したり行いまし

て、相談支援のできる体制ということで今やっておるところでございます。そのあたりで産前、産後サポーターと産後ケアの支援という格好がございますし、あと、乳幼児の家庭全戸訪問などを行ったりしております。また、乳幼児健診、3カ月、6カ月、10カ月、1歳6カ月、3歳児健診というところで行っておるところでございます。この中で見つけられた障がいのあるような格好があればというところが見つかれば、子育て支援センターの方と連携をとりながら、保健センターと連携をとりながら対応をしておるといいう状況でございます。

○安田委員長

発達障害に関してはちらっとしかなかったのですが、よろしいですか。

○塚田委員

いや、5歳児ぐらいでちょうど社会性ができてくるので、やっぱり3歳ではなく就学時健診ではなく、5歳ぐらいのところでやっぱり見つけていくということが、なかなか保護者の方からは、いや、大きくなったら治りますというパターンが多いので、そうではないというところをもう少し皆さんに認識していただけたらと思います。

○安田委員長

3歳ではなくて、5歳ぐらいが適当ではありませんかという話でありますけれども、いかがですか。

○岩井健康・子育て推進局長

持ち帰らせていただきまして、内部の方で検討をさせていただければと。

○安田委員長

はい、よろしく申し上げます。それでは、茶谷委員、お願いします。

○茶谷委員

失礼します。私からは質問はありません。最近、日々目先の仕事で忙しい毎日過ごしているのですが、最近、オバマ大統領の広島訪問に久しぶりに感動しまして、何に感動したかという、71年間アメリカの大統領が1回も広島を訪れたことがないという中で、彼が現実にしたということは、本当に様々な問題や反対があった中を実現したのだろうなと思って感動しました。その中で、では、彼は一体何をしたかったのかと思った時に、本当に核兵器を無くしたいのではないかと思いました。アメリカの大統領だからできることをというのを任期間近というところで彼なりに必死にやったのではないかなと思いました。

それを踏まえて、我々もこの鳥取市、いいものにしていこうという思いの中、私も一企

業人として常にそれは良くしていきたいなと思っております。今現在所属している青年中央会というところ、113名企業がございます。また、東部には五青協といたしまして、5つの青年経済団体がございますので、その中にも絶対にこのような志の者が多くおると思っていますので、ぜひ協力して垣根をつくらずに鳥取を良くしていきたいと思っております。

○安田委員長

ありがとうございます。ちなみに安倍さんはパールハーバーに行くのかな。大きな問題であります。余談でありました。それでは今日、オブザーバーでおいでいただいております鳥取市医療看護専門学校の荒木さん、コメントを一言いただけますか。

○荒木事務局次長

本日、橋本の代わりに出席させていただきましてありがとうございます。今回のこちらの項目課題のところ、我々鳥取市医療看護専門学校が2年目、来年はもう卒業学年を迎えるということで、今回25番の看護学生の就労支援というところに真っ先に我々がどういった形で鳥取市の貢献としてお役に立てるのかという課題を近々迎えております。今まさしく学生の方でも、やはり入学生の方はもうほぼ8割、9割が地元で就職したいというところは明らかです。そういった意味で、やはりこのような専門学習とともに、地元で就職する背景の中には、鳥取が好きだ、大好きなのだということも踏まえる学校教育でありたいなということのをこれからさらに邁進していきたいと思っております。その上では、やはり学校組織だけではなく、極力コミュニティー、地域の皆様方の御支援や情報なんかもキャッチしていきながら地域との連携のとれた学校づくりに寄与していきたいと思っておりますので、今後とも御指導のほどよろしくお願いいたします。

○安田委員長

ありがとうございました。情報の交換をどんどんやっていきたいと思っております。

それでは、一通りの御意見をいただきましたので、2番目の鳥取市創生総合戦略の各施策の検証方法ということで、資料ナンバー2を事務局から説明をいただきますが、塩谷さん、時間はどうですかね、少しもらった方がいいかな。5分ぐらい延長。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

はい、お願いします。

○安田委員長

よろしいですか。今、2時58分でありますけれども、申し訳ございません。5分間程度延長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

資料2に基づき説明（略）

○安田委員長

事務局から説明がございました。何か御質問、御意見はございますでしょうか。評価というのは客観的に見ていかなければいけないものですから難しいですが、事前に市当局の方から評価をいただくと、審査をいただくという形になっておりますので、メンバーにおかれましては、その資料をいただいてから期間は長いこともらわなければいけないですな。1週間ぐらいではいけませんよ。よろしいでしょうか。

御意見が無いようでしたら、次に行かせていただきたいと思います。今後のスケジュールについて、資料ナンバー3ですけれども、事務局より説明してください。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

資料3に基づき説明（略）

○安田委員長

ありがとうございました。我々は鳥取市総合企画委員会、2番目という形でございますので、御理解をいただきたいと思います。御質問、御意見はございますでしょうか。

無いようでしたら、続きまして、その他に入ります。事務局何かありますか。

○塩谷政策企画課創生戦略室長

1点です。先ほど申し上げましたが、次回、第2回の開催日程につきましての協議をさせていただきますと思います。事務局案としましては、7月27日水曜日の午後2時から4時ということで提案をさせていただきますと思います。

○安田委員長

7月の下旬ということで、もうほぼ下旬に、あと2日しかありませんけれども、させていただきますということであります。皆さん、御都合はいかがでしょう。どうしてもおっしゃる方がありましたら、事前に御連絡をお願いしたいと思います。7月27日、14時から16時でございます。よろしくお願いたします。

以上をもちまして平成28年度第1回の鳥取市総合企画委員会を閉会させていただきます。本日はどうもお疲れ様でございました。ありがとうございました。